

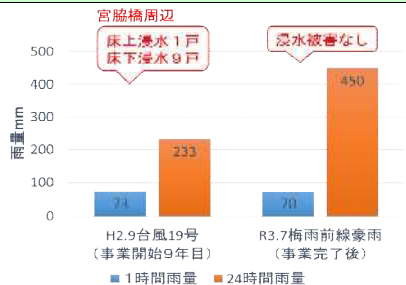


番号	4	令和5年度公共事業事後評価調査		担当課名[河川海岸整備課]												
事業名	河川改修事業		事業主体	静岡県												
箇所名	一級河川 梅の木沢川		市町名	駿東郡長泉町												
事業概要																
事業の目的・必要性	一級河川梅の木沢川において河道拡幅を実施することにより、概ね30年に1回程度発生する豪雨（時間雨量72mm）による洪水を安全に流下させ、沿川の長泉町一色地区の浸水被害の軽減を図る。															
事業量	【改修区間延長】1.6km 【工種】掘削・護岸工：1,600m、橋梁：5基															
施設の利用状況や被害軽減効果 等																
当初 または 前回	事業費 2,030百万円	事業期間 昭和56年～令和3年	施設の利用状況や被害軽減効果 等 対象降雨（確率規模1/30）による浸水被害の解消	B/C : 1.26 EIRR : -												
事後	事業費 1,958百万円	事業期間 昭和56年～平成30年	施設の利用状況や被害軽減効果 等 対象降雨と同規模の令和3年7月梅雨前線豪雨（愛鷹雨量観測所：450mm/24h、70mm/h）において浸水被害が発生していない。													
差	事業費 72百万円減	事業期間 3年減	施設の利用状況や被害軽減効果 等													
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>梅ノ木橋～手城橋（改修前）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>梅ノ木橋～手城橋（改修後）</p> </div> </div>																
事業の効果の発現状況																
<p>浸水被害のあった平成2年9月の台風19号（24時間雨量233mm、時間雨量73mm）に対し、事業完了後の同規模の令和3年7月梅雨前線豪雨（24時間雨量450mm、時間雨量70mm）では浸水被害が発生しなかったことから、事業の効果の発現が認められる。</p>			 <table border="1"> <caption>宮脇橋周辺 浸水被害状況比較</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H2.9台風19号 (事業開始9年目)</th> <th>R3.7梅雨前線豪雨 (事業完了後)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時間雨量 (mm)</td> <td>73</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>24時間雨量 (mm)</td> <td>233</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>浸水被害状況</td> <td>床上浸水1戸、床下浸水9戸</td> <td>浸水被害なし</td> </tr> </tbody> </table>		項目	H2.9台風19号 (事業開始9年目)	R3.7梅雨前線豪雨 (事業完了後)	1時間雨量 (mm)	73	70	24時間雨量 (mm)	233	450	浸水被害状況	床上浸水1戸、床下浸水9戸	浸水被害なし
項目	H2.9台風19号 (事業開始9年目)	R3.7梅雨前線豪雨 (事業完了後)														
1時間雨量 (mm)	73	70														
24時間雨量 (mm)	233	450														
浸水被害状況	床上浸水1戸、床下浸水9戸	浸水被害なし														

事業実施による環境の変化

多自然川づくりによる治水安全度の向上を図った。
 多自然川づくりにより隣接する公園から水際へと降りれるスロープ及び石積を整備したことで親水性が向上した。また、河床に玉石を配置し水生生物が隠れる場所を保全した。

荒地について、河川改修に合わせ、河川沿いに管理道を整備したことにより、親水性が向上し、市街地として良好な生活環境が形成された。



事業を巡る社会経済情勢等の変化

河川改修による治水安全度の向上のほか、地域交通のネック部であった橋梁5基の架け替えや管理道を整備したことにより、利便性の向上にも寄与した。
 また、当地区では国道の整備も相まって、工場団地や住宅地が進出する等のストック効果が見られている。



対応方針 (案)

(1) 評価結果

事業の効果は発現しており、改善措置の必要はない。
 事業完了後、浸水被害の発生した平成29年9月の台風19号と同規模の豪雨が令和3年7月(梅雨前線号)に発生したが、この豪雨においては、この流域での浸水被害が発生していないため、治水効果が十分発揮されている。

(2) 今後の課題等

河川パトロールに基づく堆積土の撤去や草刈りなど、河川管理者として適切な維持管理に努める。

(3) 同種事業への反映等

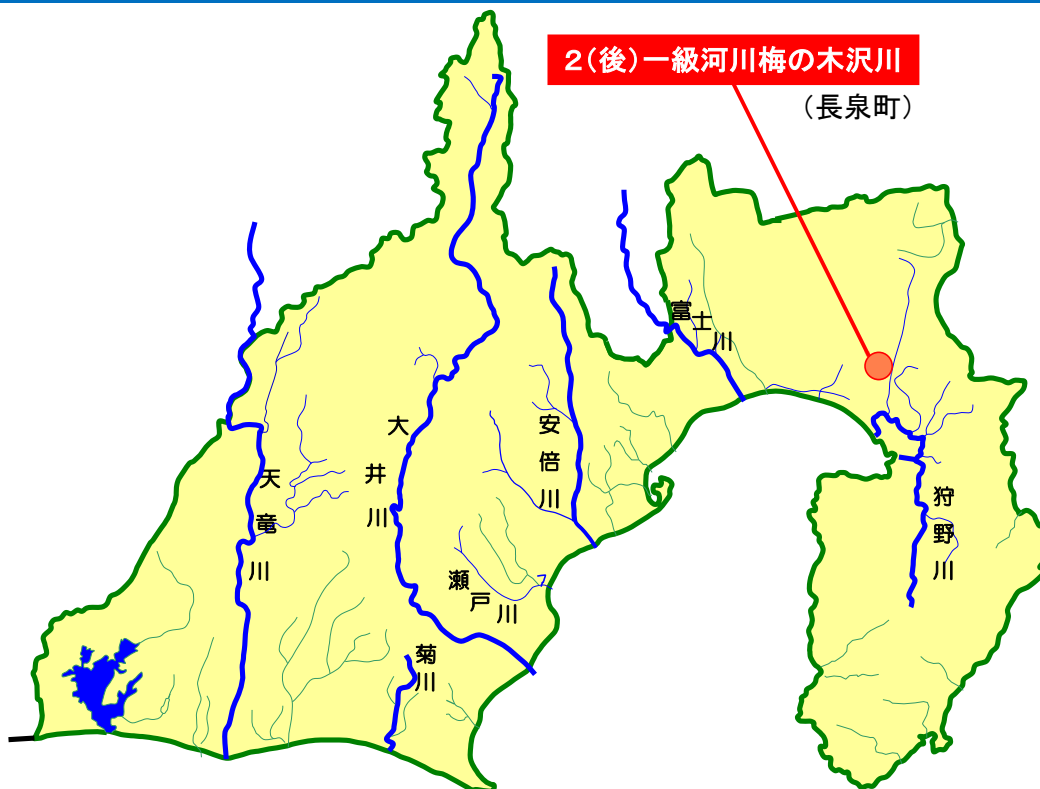
建設発生土を下流部の旧川廃川処理の埋め戻しに流用し、残土運搬距離の短縮や処分費の削減を図った。また1工事当たりの改修区間を長く設定することにより仮設費の縮減を図った。これらコスト縮減策により、最終的に事業費の削減を図ることができた。
 また地元ともコミュニケーションを密にとり円滑な合意形成や用地買収ができたことで、スムーズな工事着手が可能となり、事業期間の短縮を図ることができた。
 これら取組を同種事業にも反映していく。

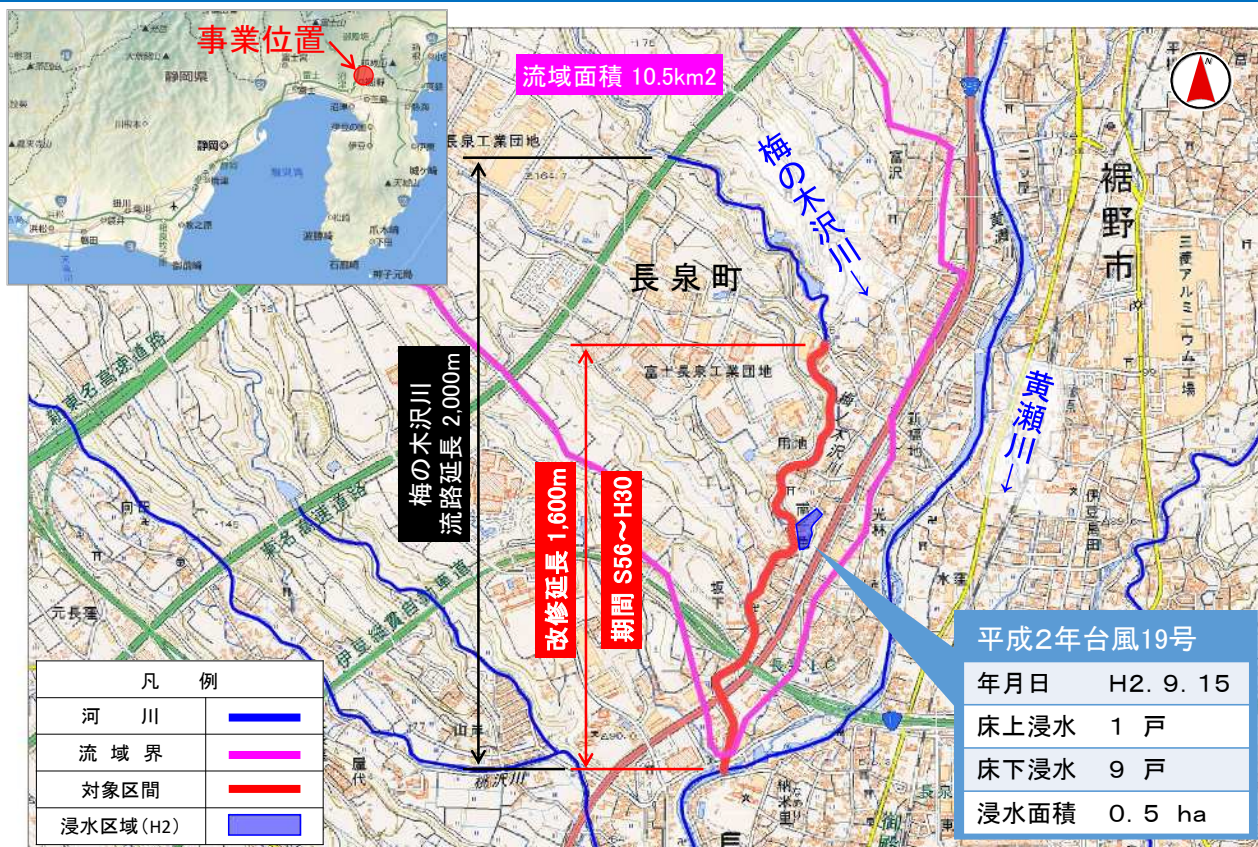
番号	事業名	箇所名	代表事例
2	河川改修事業	うめのきさわがわ 一級河川梅の木沢川	◎

河川砂防局 河川海岸整備課

事業箇所図

2





<総合流域防災事業>
一級河川梅の木沢川

—計画(H25再評価時)—

事業期間	昭和56年度 ～令和3年度
事業費	2,030百万円

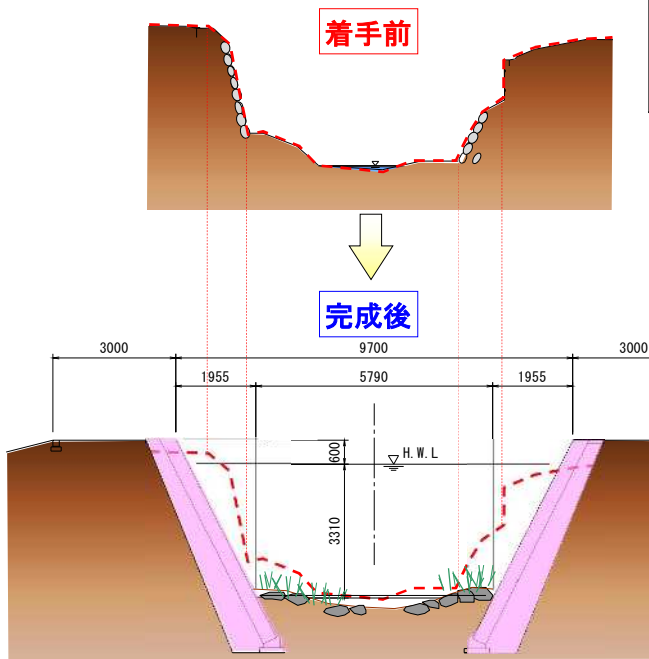


—実績—

事業期間	昭和56年度 ～平成30年度
事業費	1,958百万円



標準横断面図



改修規模	72mm/h 治水安全度1/30年確率降雨
実施内容	改修延長 L=1,600m 掘削・護岸工 L=1600m 橋梁工 N=5橋



改修の状況

梅ノ木橋～手城橋(1.3k地点)

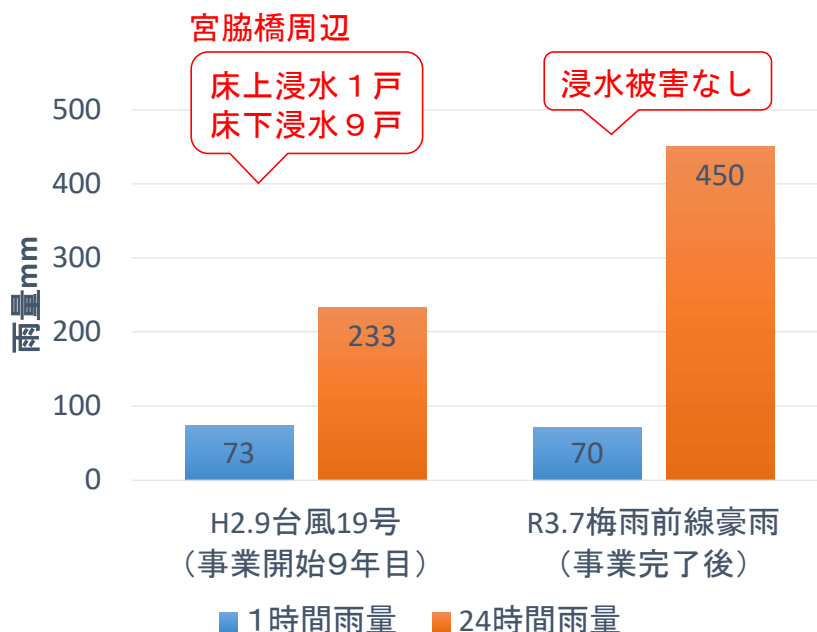
河道拡幅により、治水安全度が向上



手城橋より下流を望む(1.6k地点)



事業完了後、平成2年9月の台風19号と同規模の豪雨令和3年7月（梅雨前線）が発生したが、浸水被害が発生していない。



事業効果が発現されている

宮脇橋付近の河道状況



河川改修による治水安全度の向上のほか、ネック部であった橋梁5基を架け替えたことで地域交通の利便性の向上にも寄与

①二つ橋



②入方橋



河川改修区間近傍において工業団地や住宅地が建設されるなど企業や住民の進出が見られる

③工業団地



④新興住宅地



- 事業完了後、浸水被害の発生した平成2年9月の台風19号と同規模の豪雨が令和3年7月豪雨では、浸水被害は発生していないため、治水効果が十分発揮されている。

**事業効果は十分発現しており、
改善措置の必要はない**

今後の対応

河川パトロールに基づく堆積土の撤去や草刈りなど、河川管理者として適切な維持管理に努める。